



研究主題

豊かな心をもつ児童の育成

広く、深く考える道徳授業を目指して



調布市立多摩川小学校

平成28・29年度 調布市教育委員会研究推進校 東京都道徳教育推進拠点校



研究主題

豊かな心をもつ児童の育成

~広く,深く考える道徳授業を目指して~

目次

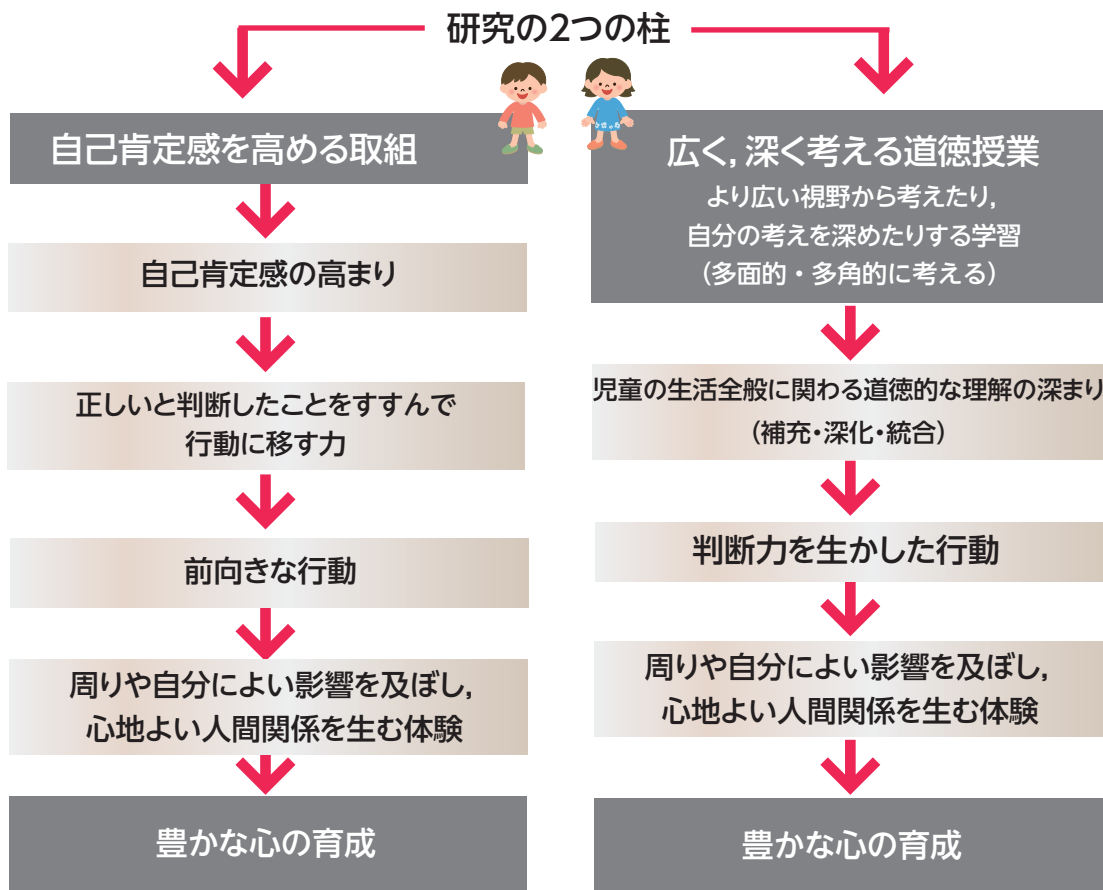
- P1 あいさつ / 教育長
はじめに / 学校長
- P2 本校研究の概要 / 研究の2つの柱 / 研究組織
- P3 研究構想図 ○研究テーマ ○目指す児童像 ○研究仮説 ○児童の実態
- P4 自己肯定感を高める取組
- P5 広く,深く考える道徳授業のための手立て ~4つのステップ~
- P6 効果的な板書の工夫について
- P8 PDCAサイクルにのせた授業改善と評価
- P9 教材・教具の共有 / 学習のあしあと
- P10 本校の児童の実態調査
研究の実践
- P12 たまがわ若木学級
- P14 第1学年
- P16 第2学年
- P18 第3学年
- P20 第4学年
- P22 第5学年
- P24 第6学年
- P26 研究の成果と課題
- P27 御指導いただいた講師の方々 / 研究に携わった教職員
おわりに / 副校長

本校研究の概要

「豊かな心をもつ児童の育成」を目指して (児童の実態と研究主題とのかかわり)

本校は平成25年度から「豊かな心をもつ児童の育成」というテーマを掲げ、道徳を中心として研究を重ねてきている。本校の児童は自分の考えたことを正直に言葉に表す素朴な子どもたちである。その分、相手の気持ちを配慮した言動がとれないことがある。また、相手の言葉を否定的に捉え、傷付け合ってしまうことも少なくない。

お互いが気持ちよく生活や学習をするためには想像力を働かせて相手の気持ちに気付いたり、周りのことや先のことを考えて自分の行動が適切かどうか判断する力が必要となる。すなわち、「自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」=「豊かな心」の育成が求められる。そのため、「豊かな心をもつ児童の育成」を研究の大きなテーマとしていくこととなった。



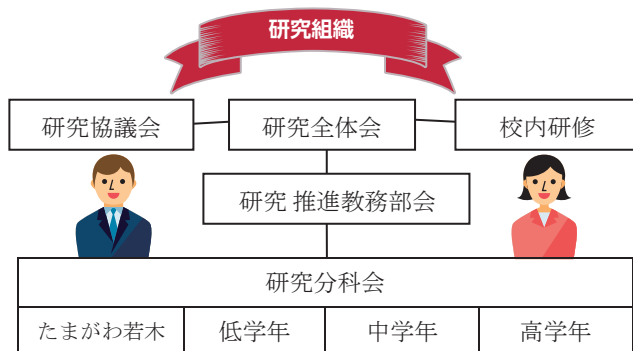
☆自己肯定感☆

自分に対する評価を行う際に自分のよさを肯定的に認める感情。
(東京都教職員研修センター紀要より)
自己肯定感が低いと、注意や忠告を否定的に捉えてしまい、怒りにつながってしまう。

☆物事を多面的・多角的に考える☆

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」第2章
道徳教育の目標 第2節 道徳科の目標 2 道徳性を養うために行う道徳科における学習(17ページ)

「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育てるのである。」



研究構想図

多摩川小学校道徳教育の重点目標

人との関わりや集団との関わり, 自然体験活動を通して, 思いやりの心や規範意識を育むとともに, 自己肯定感を高め, 心豊かな児童を育てる。

学校教育目標

- 自分の考えをもつ子
- ◎思いやりのある子
- 体をきたえる子

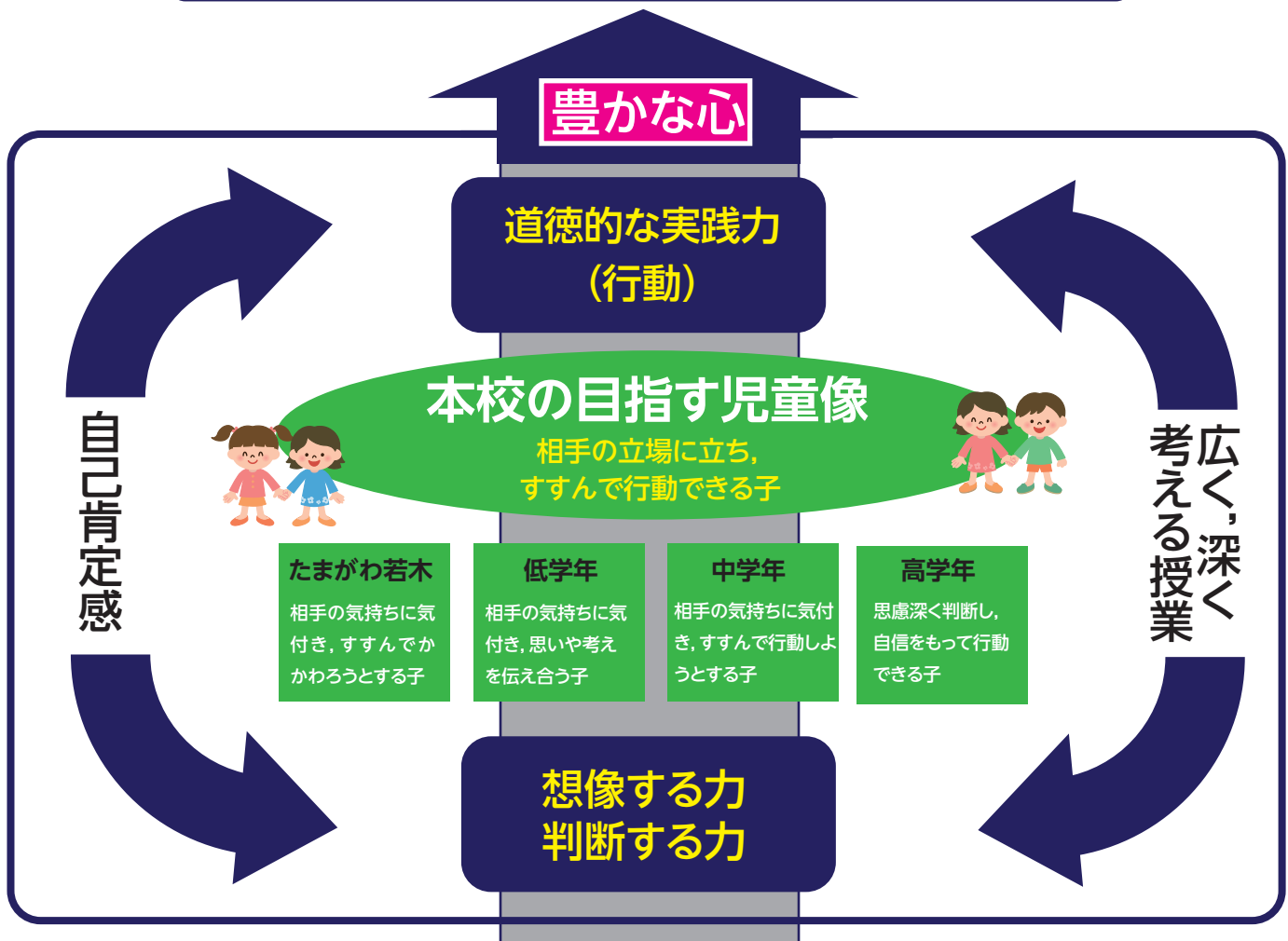
保護者・地域が求める学校

- 思いやりのある児童が育つ学校
- いじめのない学校

研究テーマ

豊かな心をもつ児童の育成

～ 広く, 深く考える道徳授業を目指して ～



研究仮説

児童が「広く, 深く考える道徳授業」を積み重ね, 道徳的価値の理解(自己理解, 他者理解, 価値理解)を深めていくことによって学校生活全体の様々な場面で互いのよさを認め合えるようになり, 自己肯定感を高めていく。児童がこの学びを繰り返す中で, 「豊かな心」が育まれ, 実際の問題に対処できる実効性のある力「相手の立場に立ち(想像する力・判断する力), すすんで行動できる力(道徳的な実践力)」を更に身に付けていけると考えた。

児童の実態

♥素直で正直

♥明るく活動的

♠正しいと思うことを行動に移すことが苦手

♠相手の気持ちを考えた言動が苦手

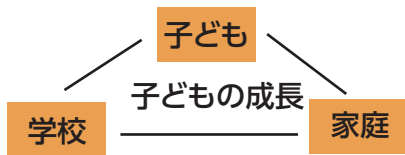
自己肯定感を高める取組

【全校での取組】

〈キラリタイム 1～6年〉

朝の会や帰りの会に、友達のよいところや頑張っていることを発表する。

【家庭と連携した取組】



道徳の研究を進めるに伴って、家庭でも道徳的価値を理解し、話題にすることで児童の実践意欲につなげたいと考えた。

また、児童へ励ましの言葉をかけてもらうことにより、児童の自己肯定感が高まると考えた。

たまがわ若木学級

〈わたしたちの道徳〉

「わたしたちの道徳」にある生活を振り返る学習に、家庭でも取り組んでもらう。
(長期休業中)



〈「基本的生活習慣力」の取組〉

日常生活に必要な、食事のマナーや身だしなみなど、毎日取り組んでいることを週末に振り返り、チェックする。



1年

〈お話かんそう〉

学習した道徳のお話を家庭で読んでもらい、一言励ましの感想を書いてもらう。



2年～4年

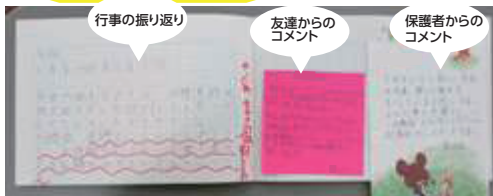
〈道徳かがやきノート〉

道徳で学習したワークシートをノートに貼って資料と一緒に週末持ち帰り。

家庭で資料を音読し、励ましのコメントを書いてもらう。



5年



〈振り返りジャーナル〉

行事や委員会などで、自分が考えたことを振り返り、担任が価値付けるコメントを書く。



1冊のノートで取り組んでいる

〈ひみつの友達〉

月：くじで褒める相手を決める。

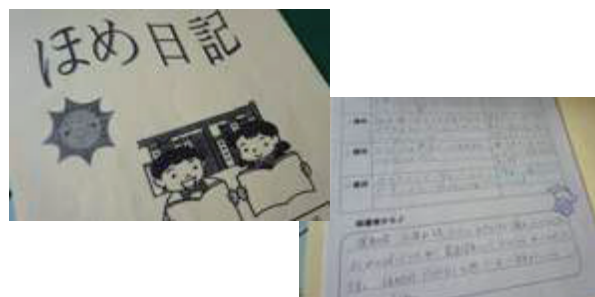
金：よいところを付箋で伝える。

家庭に持ち帰り、コメントを書いてもらう。

6年

〈ほめ日記〉

毎週自分の頑張ったことを日記に書く。1ヶ月に1回程度家庭に持ち帰り、励ましのコメントを書いてもらう。



広く、深く考える道徳授業のための手立て

－ 4つのステップ－

～第5学年「牛乳配り」の授業実践を例に～



～道徳的価値の理解を深めさせるために～

手立て **資料提示の工夫**

場面絵を貼ったり、BGMを流したりしながら語りかけることで、主人公と自分を重ねられるようにした。

資料提示の工夫は他にも…

- ・紙芝居
- ・ITによる範読
- ・ペープサートなど



～自己を見つめさせるために～

手立て **心メーター**

言葉では表せない気持ちや考えを表現する手段として、心メーターを用いた。



心メーター

自己を見つめさせるためには他にも…

- ・動作化・役割演技
- ・心の中の小人会議
(16ページ参照)など

特別の教科 道徳の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



～多面的・多角的に考えさせるために～

手立て **発問の工夫**

「主人公はどんな思いで自転車のペダルを強く踏み出したのか。」という発問で多様な考えが出るよう「働きたくないと思っていたよね。」などのゆさぶりの発問などを加える。

多面的・多角的に考えさせるためには他にも…

- ・話し合いの人数の工夫
- ・ネームプレートによる意志表示など



～自己の生き方についての考えを深めさせるために～

手立て **ふりかえり**

対話シートを用いて自分の生活を振り返る。対話シートは友達と交換し、お互いコメントを書き合う。

自己の生き方についての考えを深めさせるためには他にも…

- ・手紙 など



効果的な板書の工夫について

板書は、その時間のねらいである道徳的価値の理解に向け、重要な要素の一つであり、資料提示の場となったり個々の考えを伝え合う場となったりする。そのままでは消えてしまう言葉のやりとりやポイントとなるキーワードを記録して黒板に残すことで、お互いの思いや考え方がより鮮明になり、道徳的価値の理解に向けて、児童の思考の拠り所・道しるべともなる。児童一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるために、より効果的と思われる板書の工夫を4分類にまとめた。

より効果的と思われる板書の工夫を
4分類

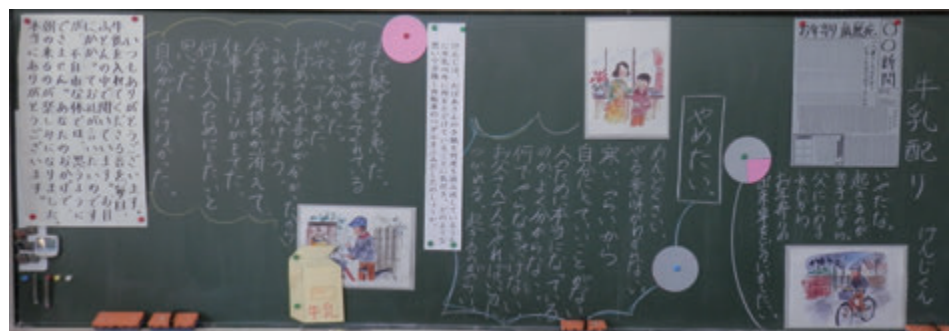


A 節度, 節制 1年「かぼちゃのつる」



児童が、自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるためには、資料の内容把握が前提条件となる。それを短時間でできるように、資料の流れに沿って場面絵やキーポイントとなる言葉・文などを掲示しながら学習を進める。児童にとっては、主人公の行動や功績などに至るまでのきっかけや出来事を捉えやすく、考えや話し合いをより深める手助けとなる。

C 勤労, 公共の精神 5年「牛乳配り」



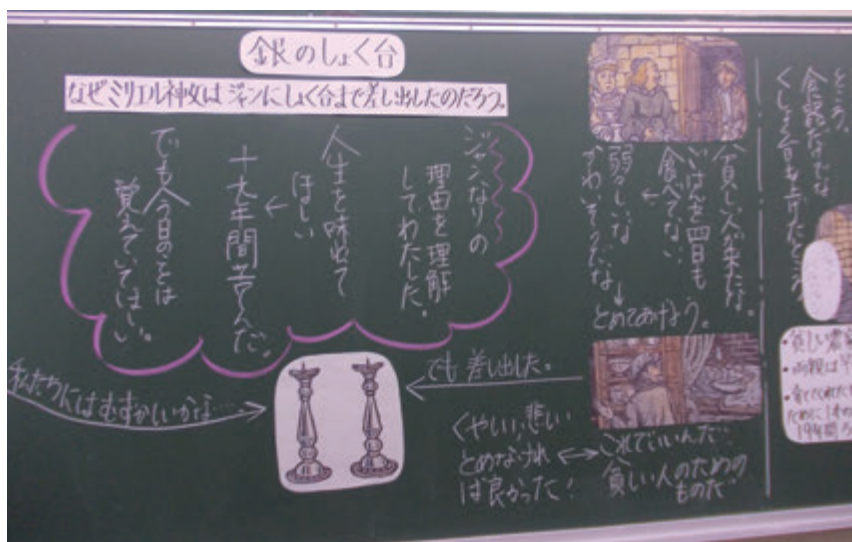
主人公に起きる問題や葛藤・気づきなどに自我関与し、それを通して考えを深めるためには、心情理解や共感が必要になる。児童が主人公の心情変化を捉えやすいように、場面絵の配置や色分け、記号の種類や教具などを工夫しながら授業を行う。児童にとっては、主人公の気持ちや思いの浮き沈みが捉えやすく、より共感的に考えを深めることができる。

C 公正, 公平, 社会正義 3年「二まいの絵」



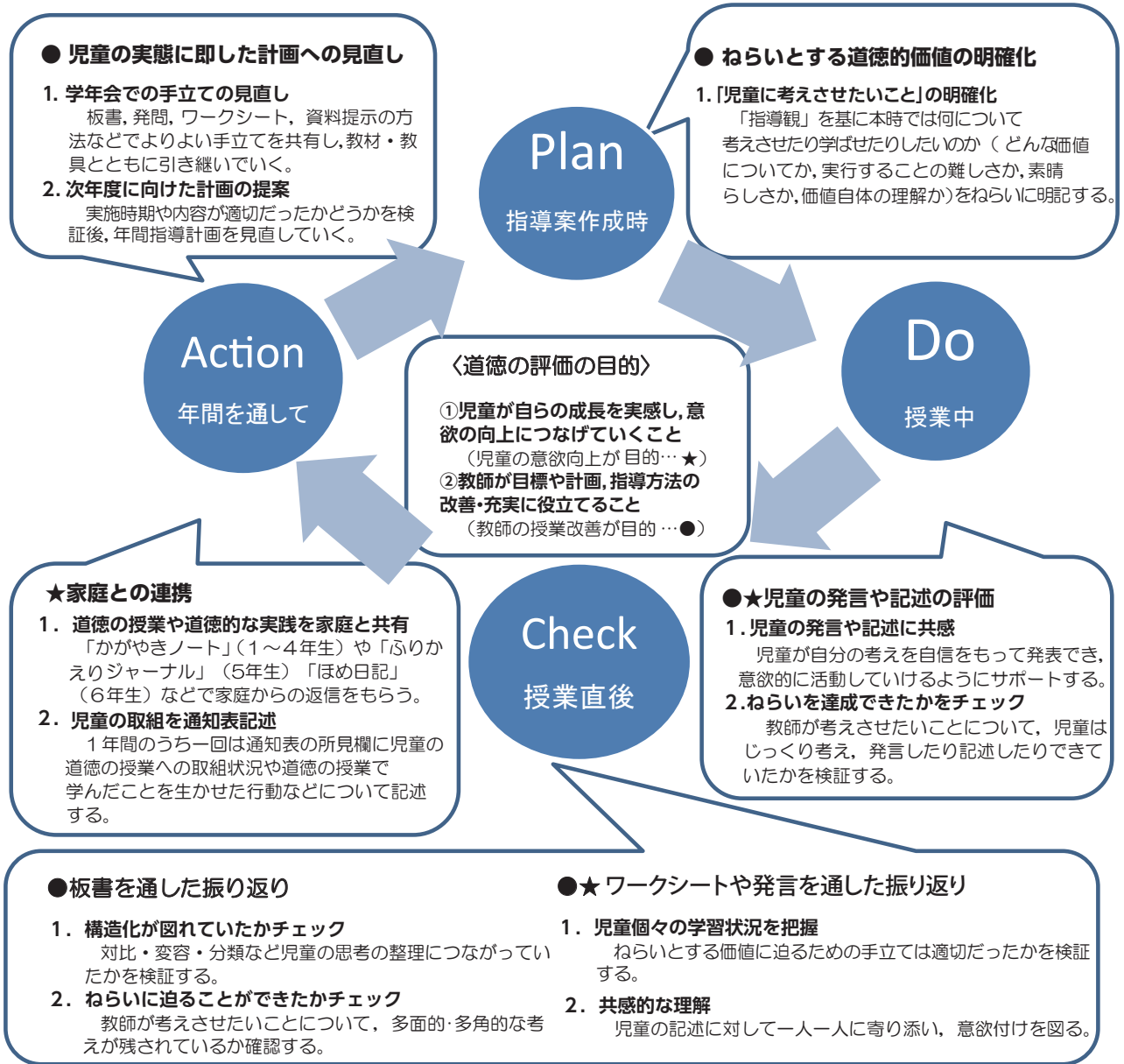
複数の概念の対立や葛藤について話し合いを深めるためには、物事を多角的・多面的に捉えながら自分の考えや立場・価値観を明確にする必要がある。それらを描き出した板書に基づいて、お互いの考え方や感じたことを交流することで、児童は自分の価値観との違いに気付いたり自分の考えに自信をもてたりして、考えや話し合いをより深めることができる。

B 相互理解, 寛容 6年「銀のしよく台」



授業のねらいである価値や発問を、終始提示しながら授業を進める板書構造。何について考え、話し合ったらよいのかを焦点化することで、話題が逸れることなく、児童がより強くねらいを意識できる。道徳的価値の根幹に触れるテーマや発問が多く、児童はじっくり深く考えないと回答できないため、道徳的価値についてより深く追究することができる。

PDCAサイクルにのせた
授業改善と評価



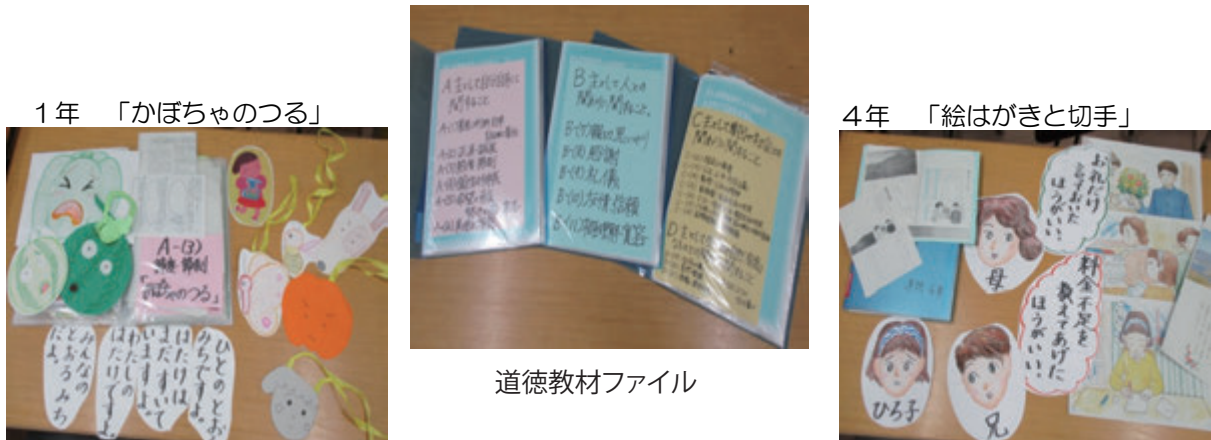
児童の学習状況への評価の視点

<p>多面的・多角的な見方へと発展させているか</p> <p>＊自分と違う意見を大切にしているか。 ＊いろいろな側面や角度から考えようとしているか。</p> <p>通知表所見文</p> <p>道徳「やめることはできない黒柳徹子」では、どんな思いでユニセフ親善大使を続けているのかを様々な視点から考えて発表することができました。</p>	<p>道徳的な価値を自分自身との関わりの中で深めているか</p> <p>＊登場人物を自分と置き換えて理解しようとしているか。 ＊実際に行動することの難しさや清々しさを自分のこととして考えているか。</p> <p>通知表所見文</p> <p>道徳の授業では振り返りの時間に「正直に話せてすっきりした経験」について発表するなど、自分自身を振り返り主体的に学習し、考えを深めていました。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材・教具の共有

1. 道徳教材ファイルについて

本校では、道徳で使用した教材・教具を、各学年ごとにA3判のファイルに保存しています。



- ☆主にファイルに入れるもの
- ・読み物資料
 - ・発問（短冊）
 - ・場面絵
 - ・ワークシート
 - ・指導案
 - ・ペープサート
 - ・お面
 - ・など

- ☆利点
- ・日頃の道徳の授業に役立てられる。
 - ・効率的に道徳の教材研究ができる。
 - ・学校全体で全学年の道徳の資料を常に閲覧・活用することができる。
 - ・毎時間、児童の興味・関心を高められる資料を提示することができる。

2. CDについて

読み物資料を読む間、児童がより自己を投影させられるよう、BGMを流すことが多い。BGMには、曲調が穏やかなものが適している。例えば、ドラマなどのサントラ盤が使いやすい。また、ワークシートを記入する際には時間の目安にもなるというよさがある。そのBGMのCDを職員室の所定の場所に置き、全教員に貸し出せるようにしている。全教員が必要な時に随時使用できる。



学習のあしあと（教室掲示）



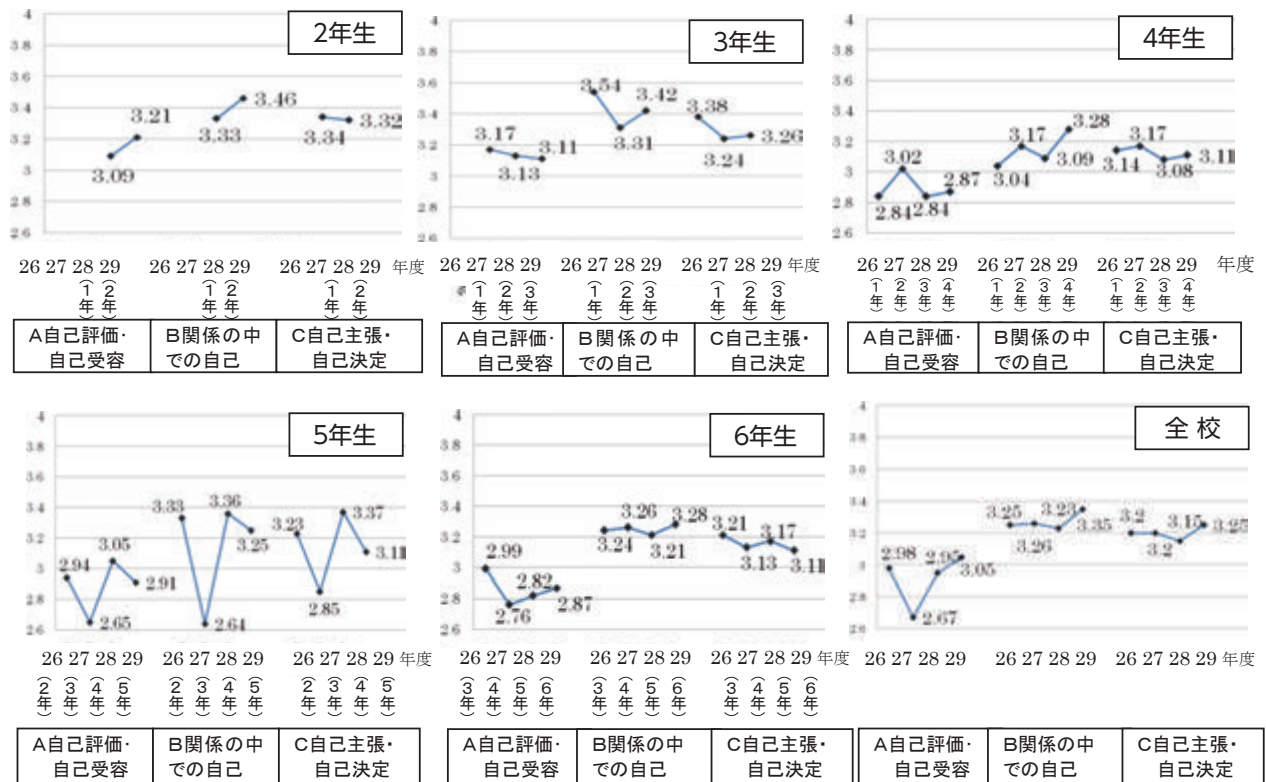
資料名と授業で学んだことを掲示し日常生活で生かせるようにしている。

本校の児童の実態調査

自己肯定感アンケートの実施と分析

<実施方法・目的>

平成26年度から毎年6月に全校児童に実施している。本校の児童の自己肯定感がどのくらいなのか、自己肯定感を高める取組によって数値は上がっていくのかを調査するのが目的である。質問紙は「自尊感情測定尺度(東京都版)自己評価シート」を使用しており、グラフは同じ児童の数値の推移を示している。(昨年度の1年生が今年度の2年生ということになる。)



<分析>

4年目となる今年の数値を見ると、6年生では思春期・青年期の児童特有の数値低下が免れなかった。しかし、2～5年生では昨年よりも数値の上昇が見られ、本校全体で継続して実施している「自己肯定感を高める取組」の成果が表れていると考えられる。

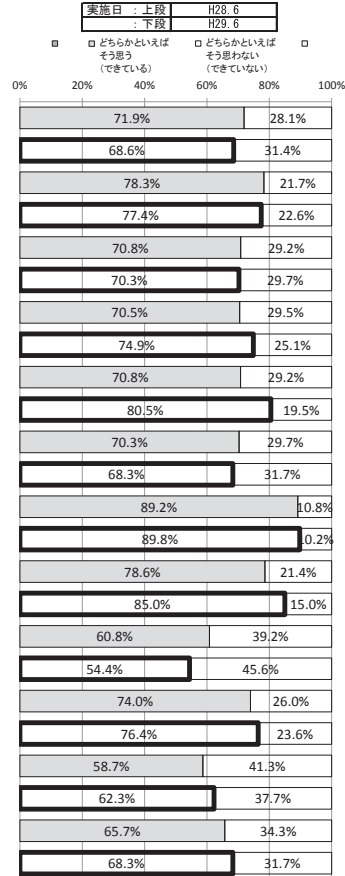
多摩川小学校 「道徳についての意識調査」実施と分析

<実施方法・目的>

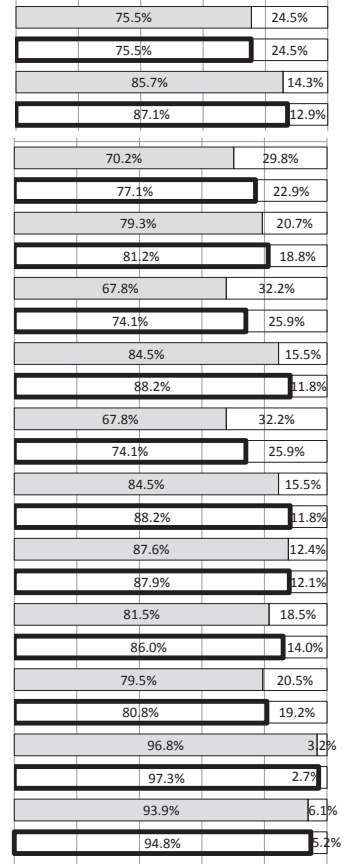
昨年度から6月と2月に以下の内容で「道徳についての意識調査」を全校児童に実施している。「道徳についての意識調査」は本校の児童の道徳の授業と道徳的な行動の両方に対する児童の意識のもち方の傾向を把握するのが目的であり、質問内容は本校独自のものになっている。グラフは昨年度と今年度の同時期(6月)に実施した数値の比較である。

H28H29全校年集計

	No	質問
道徳の授業について	1	道徳の時間の勉強が好き。
	2	道徳の時間で勉強したことを生活で生かしたことがある。
	3	「道徳の時間」では、自分の考えを人に伝えたり、他の人の考えを聞きながら自分の考えを修正したり、自信をもったりできている。
A主として自分自身に関すること	4	正しいと思うことを自信をもってやっている。
	5	まちがったことをしてしまったら素直に直そうとしている。
	6	「早寝・早起き・朝ご飯」ができている。
	7	みんなで使うものを大切に扱っている。
	8	車に気を付け、子供だけで夜に行動しないようにしている。
	9	地震や災害のときに自分はどう行動するのかふだんから考えている。
	10	学校に持って行くものを前の日にたしかめている。
	11	身の回りを工夫して整えている。
	12	テレビ・ゲームの時間や勉強をする時間など、ルールを家の人と決めている。



	質問	
B主として人との関わりに関すること	13 人が困っているときにすんで助けている。	
	14 ありがとう、ごめんなさい、お願ひしますをしっかりとっている。	
	15 人に会ったときにすんであいさつをしている。	
	16 時と場に応じて丁寧な言葉で話している。	
	17 友達をきずつけることは「うざい」「きもい」などと言わないようにしている。	
	18 友達の良いところを見付けられている。	
	C主として集団や社会との関わりに関すること	19 学校や社会のルールやきまりを守っている。(順番を守る、ゴミをすてない、公園を正しく使うなど)
		20 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
		21 家族や友だち、地域の人の役に立つ人間になりたいと思う。
		22 係活動や学級会では互いを認め合いながら話し合い、協力して楽しい学級をつくろうとしている。
23 外国の人に伝えたいと思う日本の文化(遊び、行事、習慣など)がある。		
D高のころから主として生命や自然に関すること	24 命はかけがえないものだと思う。	
	25 生き物をかわいいと思ったり、自然のけしきをきれいだなと思ったりすることがよくある。	



<分析>

※ 上段 平成28年度6月 下段 平成29年度6月

① 道徳の授業に対する意識(項目1~3)

昨年と同時期(平成28年度6月と平成29年度6月)の数値の推移をみると、項目1~3の「道徳の授業について」の数値が下がっている。この結果を受け、更に道徳の授業が好きでない理由について児童に調査してみた。すると以下のような理由が多いことが分かった。

〈道徳が好きでない理由〉

- ・話が面白い。
- ・考えるのが楽しい。
- ・友達の考えを聞くと勉強になる。

〈道徳が好きではない理由〉

- ・考えるのが難しい。
- ・発表するとき、何て言っていかわからない。

このことから道徳の授業は自分について深く考える力が必要とされることが分かる。自己の思考の言語化が難しい児童や感情移入が難しい児童には、道徳の時間は好きと言えないのかもしれない。また、高学年では「毎回授業の進め方が同じ」や「聞いている時間が長い」などの理由も出てきている。本校ではいろいろな授業改善を試みているが、更なる授業形態の工夫も今後の課題といえる。

② 道徳的な行動に対する意識(項目4~25)

昨年と今年6月の数値を比べると、22項目中14項目で上昇が見られ、下がった項目は2項目にとどまった。このことから児童の道徳的な行動への意識は向上したと言える。上記①のように道徳の授業に対しては難しさを感じているものの、実生活では「道徳的でありたい」という気持ちが高まっており、本校の目指す「相手の立場に立ちすんで行動できる子」という児童像に一步近づく研究の成果と捉えられる。

たまがわ若木
第3・4・5学年
A 正直, 誠実

主題名 しあわせなきもち
資料名 **ライオンとネズミ**

【板書計画】

やくそく
ライオンとネズミ

いのちをたすけてもらったネズミが言った「やくそくを守る」きもちはず、ほんとうか、うそか。
・ほんとう(いのちをたすけてもらったから)
・うそ(にげたいから)

やくそく
おかしさをする。

つかまったライオンを見て、ネズミはどんな気持ちになったか。
・ライオンさんをたすけにいかないよ。
・にげちゃおう。

やくそくを守ったから
やくそくを守ったから

ライオンのせなかのついているネズミは、どんな気持ちなのか。
・たすけてよかった(ありがたい)と言われたから。
・うれしい(ほめられたから)
・美しい(ライオンのせなかのつたから)

やくそくを守らなくて

ライオンも「フンフン」

【指導観】

<p>〈ねらいとする価値〉 価値観</p> <p>友達と交わす「約束を守る」ことは、友達からの信頼を得ること、よりよい友達関係を築く大切な行為の一つであることに気付き、約束を守ろうとする気持ちを高める。</p>	<p>〈児童の実態〉 児童観</p> <p>一般的な善悪は理解しているが、自分の気持ちを優先し行動してしまうことが多い。「もうしません。」と約束したことを破っていることに気付いていないことも多く、道徳の実践力が課題。</p>	<p>〈資料について〉 教材観</p> <p>イソップ童話は、話が短く単純で登場人物も少ないことから、人物の行為や心情が捉えやすい。恩返しという教訓を通して「約束を守る大切さ」について考えさせたい。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【主題に迫るための手立て】

- 〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉
- ①場面絵の数を多くする。(オリジナルの場面絵の作成、紙芝居や絵本の利用)
 - ②教師による演技
 - ③資料の分割提示
- 〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉
- ①児童による一定場面の動作化(登場人物になりきって考えられるように)
 - ②読み物に合わせた小道具の工夫(読み物の理解を促し登場人物に感情移入できるように)
- 〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉
- ①発問に対する答えを選択的にし、提示する。
 - ②発問に対していくつかの表情カードを提示し、答えられるようにする。(言語理解が難しい児童のため)
 - ③動作化を通して、道徳的行為を追体験する。
- 〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉
- ①学習内容を身近な場面に置き換えて動作化し、その時の気持ちを考える。
 - ②学習内容を受けた簡単なゲームを行う。
 - ③他教科の中で、道徳の学習内容を実践できるような場面を設定する。

【ねらい】

約束を守ることの大切さに気づき、約束は守ろうとする気持ちを高める。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	1 約束を守って生活しているかを聞く。 ○「学校やお家での約束を守って、生活していますか。」 ・ある。 ・守らないときもある。	・「正直・誠実」について、児童にとって、自分自身のこと友達とのことで生活の中で毎日起こる事例を挙げて、価値の方向付けをする。
展開	2 「ライオンとネズミ」の絵本を場面ごとに読み、発問する。 ○「命を助けてもらったネズミが言った『約束を守る』という気持ちは、本当か・うそか。」 ・本当（命を助けてもらったから） ・うそ（逃げたいから） ◎「人間に捕まったライオンを見て、ネズミはどんな気持ちになったか。」 ・助けに行かないと（命を助けてもらったから） ・逃げちゃおう（こわいから） ○「ライオンの背中に乗っているネズミは、どんな気持ちなのか。」 ・助けてよかった（ライオンにありがとうと言われたから） ・うれしい（ライオンに褒められたから） ・楽しい（ライオンの背中に乗っているから） 3 振り返り ○「自分の生活の中で、約束について考える。」 ・（友達との）約束を守ったとき ・（友達との）約束を守らなかったとき それぞれ、どんな気持ちになったか。 （C ワークシートに取り組む）	・結末が分かると、振り返り場面でそこだけのことを考えることが難しいため分割読みをする。 ステップ1 ・どの児童も考えるよう、発言が少ないときは選択肢を示す。選んだ理由を問うことで考えを深めさせる。 ステップ3 ・ライオンとネズミのぬいぐるみで場面を振り返る。続けて、児童がぬいぐるみを使い、ネズミを演じネズミの気持ちを体験する。 ステップ2 ステップ3 ※約束を守ることの大切さに気づき、約束を守ることには、お互いにどんな気持ちになるのか考えることができている。 ・守ったとき、守らなかったとき相手はどんな反応をしたかを問い、守ること破ることの意味を考える。 ステップ4
終末	4 「この人は誰でしょう。」を紹介する。 ☆「先生、あのねノート忘れました。」 ☆「休み時間は、おトイレに行ってからだね。」 ☆「先生、学習ファイル持ってくるの忘れました。」 ☆「さっき、いじわるしたこと謝りたいの。」 ☆「登校時間を守っている人。」 ☆「下級生にはやさしく。」	・児童の正直・誠実な行為を紹介する。 ・自己肯定感を高める。 ステップ4

【評価】

約束を守ったから相手も自分も幸せな気持ちになったことに気づき、約束を守ろうとする気持ちが芽生えている。

第1学年
B 友情,信頼

主題名 困っている友達に優しく
資料名 ゆっきと やっち

【板書計画】

ゆっきと やっち

ゆっきの絵

やっちの絵

(スタートライン)

ゆっきの絵

やっちの絵

ゆっきはなぜまよったのだろう。

・だいじょうぶかな。
・ともだちをたすけたい。

・きょうそつでまけたくない。
・いやな気持ちになった。
・「たきこらけよ」といわれた。

ゆっきをたすけるとき、ゆっきとやちはどんな気持ちだっただろう。

・やっちをおいてはいけない。
・かつこよりともだちがたいせつ。
・やっちがよからんでくれてうれしい。

・たすけてもらってよかった。
・こんどほぐがたすけるよ。

杉の木の絵

【指導観】

<p>〈ねらいとする価値〉 価値観</p> <p>友達に優しくすることのよさを知り、友達に優しくすることで自分の気持ちもよくなることを実感させたい。</p>	<p>〈児童の実態〉 児童観</p> <p>友達との交流が多くなってきている。友達に優しくしようと思ながらも、自己中心的言動が優先されてしまうことが多い。</p>	<p>〈資料について〉 教材観</p> <p>自慢されながらも困っている友達を助ける主人公の優しさを考え、優しくしたときのよさを味わわせたい。</p>
--------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------

【主題に迫るための手立て】

- 〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉
☆資料提示の工夫 BGM&TT☆
資料を読むときにBGMを流し、登場人物の会話をTTで読み、児童を一気に話に引き込む。
- 〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉
☆何でも話せる雰囲気作り&展開後段での振り返り☆
1年生の特質を生かし、道徳的価値に合った行動ができない素直な気持ちも話せるようにする。また、ゆっきと同じように「友達に優しくしたこと」を話し合うことを通し、自分たちの生活を振り返られるようにする。
- 〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉
☆発問の工夫☆
児童の多様な感じ方や考え方を引き出せるように、様々な視点から考えられるような発問を考える。発問は厳選し、じっくり学習に取り組めるようにする。
- 〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉
☆動作化の活用☆
助けるかどうか迷ったが、手を取って一緒に行くゆっきとやっちを動作化することで、ねらいである「助け合うよさ」を味わわせる。

【ねらい】

主人公のゆっきは、競争のスタート前にやっちに心無い言葉をかけられるが、途中失速してしまうやっちを心配して思わず声をかける。「僕のことはいいから先にいけよ。」と言われ、迷いながらもやっちを助けるゆっきの行動を考える活動を通して、困っている友達を助けようとする心情を養う。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	1 資料の登場人物について知る。 ゆっきとやっちは仲が良い。 ゆっきは飛ぶのが苦手だが、やっちは速い。	・ゆっきとやっちを区別できるように、絵を見せながら紹介する。ゆっきの気持ちを考えながらお話を聞くように伝える。
展開	2 資料「ゆっきとやっち」について話し合う。 ○「スタートする前に、ゆっきとやっちは、どんなことを考えているでしょう。」 <u>ゆっき</u> ・やっちは速く飛べていいな。 ・ぼくもがんばりたい。 ・やっちにあんなことを言われて嫌だな。 <u>やっち</u> ・ゆっきがいくら頑張ったって僕の方が速いさ。 ◎「やっちに『先に行けよ』と言われ、ゆっきはどんなことを思ったのだろう。」 ・大丈夫かな。 ・助けたらぼくも遅れてしまう。 ・先に行けばやっちに勝てる。 ・「先に行けよ。」と言っているから。 ◎「やっちを助けるとき、ゆっきとやっちはどのようなことを考えていたのでしょうか。」 <u>ゆっき</u> ・やっちをおいては行けない。 ・遅れてもいい。 ・嫌な事を言われたのは関係ない。 <u>やっち</u> ・助けてもらってうれしい。 ・自慢なんかしなければよかった。 ・ゆっきは優しいな。 3 友達との関わりについて話し合う。 ○「友達に優しくしたことはありますか。」	・BGMを流し、TTによる資料の読み聞かせをして、内容が良く分かるようにする。 ステップ1 ・黒板でゆっきとやっちの絵を動かすことで、実際に競争している臨場感を演出する。 ・ゆっきとやっちについて出てきた意見は上下に分けて板書し、分かりやすくする。 ステップ3 ・友達を助きたい思いをもちながらも、どうすべきか葛藤しているゆっきの心情を考えられるようにする。 ※迷いながらも困っている友達を助けようとする主人公の気持ちに共感し、困っている友達を助けようとするについて考えることができている。 ・ゆっきが助ける場面を動作化して、困っている友達のために行動したゆっきの心情に気付かせる。 ステップ4 ステップ2
終末	4 教師の話聞く。	・児童の普段の姿について振り返ることで、友達を助けるということについて、意識していただけるようにする。

【評価】

友達に優しくするよさに気付くことができている。

第2学年
A 善悪の判断

【板書計画】

主題名 よいと思うことをすすんで

資料名

ぽんたとかんた

場面絵 考えるぽんた

- ・行ってみたいな。
- ・楽しそうだな。
- ・危なかったら戻れば大丈夫かな。

場面絵 公園

一人でじっと考えた

秘密基地と聞いて

ぽんたとかんた

教室や廊下を走る

信号

自転車

ぽんた

いかないよ

と大きな声で言ったのはなぜか？

- ・かんたに戻ってきてほしかった。
- ・裏山は危ないと思ったから。
- ・だめなものだめだと強く思って決心したから。
- ・思い切って言ったから。
- ・行きたい気持ちに勝とうと思ったから。

一人ですら

- ・楽しそう
- ・行ってみたい
- ・行ったらいけないけど……

・危ないからだめだ。

・言われていることは守らなくちゃ。

・怒られるのはいや。

・お母さんが心配するかも。

【指導観】

〈ねらいとする価値〉 価値観

周りに左右されることなく、よいことと悪いことの判断をし、勇気をもって実行に移そうとする心情を育てたい。

〈児童の実態〉 児童観

興味・関心に任せ、衝動的な行動がまだまだ多い発達段階である。よく考えて判断する大切さを実感させる。

〈資料について〉 教材観

行ってはいけない裏山へ大の仲良しから誘われる主人公の葛藤に共感させ、禁止事項遵守の意味について広く考えさせたい。

【主題に迫るための手立て】

〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉

☆主発問の工夫☆

主発問を2回に分けて行うことで、学習後に比較できるようにする。正しい判断を行動に移すことの価値をより理解できるようにする。

〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉

☆「お話を聞いて思ったことはありますか」という発問☆

児童の思いや疑問を受け止め、引き出した問いを授業の中に組み込むことで児童が問題意識をもって取り組めるようにする。

☆児童の視点に立った資料の分析☆

児童がもつであろう問題意識を描き出し、見通しをもって授業を作るための手立てとした。

〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉

☆「心の中の小人会議」☆

主人公の心の中を複数で表現させることで、多様な考えに気付き、じっくり考えていることを捉えさせる。

〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉

☆主人公へ手紙を書く活動☆

主人公の心情に寄り添った声掛けやアドバイスを考えることで、自分はどうありたいという考え（納得解）を導き出せる。

【ねらい】

よく考えてよいことと悪いことを区別し、よいと思うことをすすんで行おうとする心情を育てる。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	1 いけないと分かっているのに守れないことを想起する。 ○「こういうことはありませんか。」 ・自転車でスピードを出し、競争してしまう。 ・点滅している信号や赤信号を渡ってしまう。 ・廊下や教室を走ってしまう。	・守らないと危険が伴う決まりの中から、児童の実態にそくした事例を選び、資料を共感的に捉えることができるようにする。
展開	2 資料「ぼんたとかんた」を読み、問いをもつ。 ○「お話を聞いて思ったことはありますか。」 ・遊びたかったのに、どうしていけないのか。 ・「行かないよ」と大きな声で言ったのはなぜか。 3 設定した問いについて考え、話し合う。 ○「ぼんたが大きな声で『行かないよ』と言ったのはなぜだろう。」 ・かんたに戻ってきてほしいから。 ・決まりを守って一緒に遊びたいから。 ○「ぼんたはどんな思いで、裏山の秘密基地に向かうかんたを見ているだろう。」 ・秘密基地、楽しそう。ぼくも行ってみたいな。 ・かんた、大丈夫かな。危なくないかな。 ○「ぼんたはどんなことをじっと考えていたのだろう。」 ・どうしよう。かんたは行っちゃった。 ・ぼくも行ってみたいな。 ・危ないところに行ったら、おうちの人は心配するだろうな。 ◎「大きな声で『行かないよ』と言ったのはなぜだろう。」 ・だめなものはだめだと思ったから。 ・行きたいという気持ちに勝とうと思ったから。 4 ぼんたへの手紙を書く。 ○「自分だったらどうするかや、自分にも似たことがあって、これからは～しように伝える手紙を書きましょう。」	・児童の思いや疑問に寄り添いながら聞き取り、発問をすることで、問題意識を引き出し、高められるようにする。 ※資料を読み、感想や疑問をもつことで、解決すべき問いを見出そうとしているか。 ステップ2 ・大きな問い（中心発問）について、現段階での考えを出しておき、学習後に比較できるようにする。 ステップ1 ・ぼんたとかんたは大の仲良しであることを押さえた上で、ぼんたの気持ちを共感的に捉えさせる。 ・「心の中の小人会議」と称して複数で表現させることによって、ぼんたの葛藤を捉えさせる。このとき、ワークシートを持たずに発表させ、即興的に言葉を引き出す。また、教師が意図的に補助発問をすることで、思考をより広げ、深めることができるようにする。 ステップ3 ※①よく考えて正しい判断をし、行動する大切さを考えることができる。 ② 友達の考えを聞くことで自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 ・本時の学習を振り返りながら手紙を書くことで、価値観の形成に結び付くようにする。 ※見出した問いについて、納得できる解をもつことができている。 ステップ4
終末	5 教師の話聞く。	

【評価】

善悪を区別し、よいと思うことをすすんで行おうとする気持ちをもつことができている。

第3学年
C 公正, 公平

主題名 誰に対しても分け隔てをしないで

資料名 **二枚の絵**

【板書計画】

【指導観】

<p>〈ねらいとする価値〉 価値観</p> <p>公正, 公平な態度とはどういうことかを知り, えこひいきしないで公平にすることで自分の気分もよくなることを実感させたい。</p>	<p>〈児童の実態〉 児童観</p> <p>仲の良い友達を優先させることも多い。どんな場面でも「公正, 公平」に行動することは難しく, かつ大切なことを感じ取らせる。</p>	<p>〈資料について〉 教材観</p> <p>自分の仲間を優先させてしまった主人公の心情に十分共感させ, 公平に考えた友達との違いを考えさせたい。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

【主題に迫るための手立て】

〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉

☆導入での価値の提示☆

導入で「公正」が問われる具体的な場面を提示し, 話し合いで活用できるようにする。

〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉

☆動作化の活用☆

主発問の前に動作化を取り入れ, 場面の追体験をしてみることで主人公と自分を重ねて考えられるようにする。

〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉

☆ネームプレートによる意見表明☆

自分の立場を明らかにすることで積極的に考えをもったり, 考えの違いを明確化したりでき, 活発な話し合いにつながるようにする。

〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉

☆主人公へ手紙を書く活動☆

主人公の心情に寄り添った声掛けやアドバイスを考えることで, 自分はこうありたいという考え(納得解)を導き出せる。

【ねらい】

主人公の公平に選びたい思いはあったけれど、仲間を優先してしまったことに対する心の揺れを自分の立場を明らかにして考える活動を通して、誰に対しても分け隔てをしないことのよさを感じ取り、公正・公平な態度で接しようとする判断力を育てる。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1 友達とのことで、不公平な態度をとられたり、とってしまったりした経験を想起する。</p> <p>○「友達と、先に遊びの約束をしていたのに、後から約束した子に優先されて、断られてしまったことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある。 ・あまりない。 	<p>・「公平・不公平」について、児童にとって身近な事例を挙げて価値の方向付けをする。</p> <p style="text-align: right;">ステップ1</p>
展開	<p>2 資料「二枚の絵」を聞いて、「ぼく」の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>○「投票するときに、少し迷っているぼくは、どんなことを考えているでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真一の絵に今年も投票しようと思っていたのに、清の絵の方がいいな。 ・仲間の真一の絵を選ばなきゃ。 ・仲間外れにされたくない。 ・二枚の絵に投票できればいいのに。 <p>◎「広志の話聞いた後、教室で二枚の絵をじっくり見つめていた時、ぼくはどのようなことを考えていたでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・え、どうして。仲間なのに。 ・真一の絵もう良かったから、裏切れない。 ・ぼくも清の絵がいいと思っていたのに。 ・正直にいい方の絵に投票すればよかった。 ・ぼくも清の絵を選べばよかったな。 ・どうして、という気持ちよりも、清の絵を選べばよかったなという気持ちが大きいと思いました。 <p>3 ぼくへの手紙を書く。</p> <p>○「今のぼくに言ってあげたいことや、自分のことを伝える手紙を書きましょう。」</p>	<p>・登場人物や場面の設定について説明をした後、場面絵を貼りながら資料を読む。</p> <p>・運動会のキャラクターとしてふさわしい作品を選ぶという目的を押さえるため、名前ではなく番号で投票することを確認する。</p> <p>・仲の良い真一の絵を選ぶか、いいなと思った清の絵を選ぶかで迷うぼくの気持ちを板書で視覚的に捉えやすいように分類する。</p> <p style="text-align: right;">ステップ2</p> <p>・休み時間、ぼくが広志に声をかける場面を動作化して、ぼくの複雑な思いを引き出し、ワークシートに記述する。</p> <p style="text-align: right;">ステップ3</p> <p>・極端な意見を取り上げ、どのあたりの思いが強かったと思うか、ネームプレートを貼らせて立場を明らかにし、そこを選んだ理由を聞き出す。</p> <p>・友達の意見を聞いた後の変化を聞く。</p> <p>・公平ということが具体的に分かるように、広志の行動について振り返りながらぼくと対比して考えさせる。</p> <p style="text-align: right;">ステップ4</p> <p>※戸惑っている主人公の気持ちに共感し、仲の良さにとらわれず選ぶことの難しさ、価値について気付き、判断する時に大切なことについて考えることができています。</p>
終末	<p>4 教師の話を書く。</p>	

【評価】

仲の良さにとらわれず、誰に対しても公正・公平な態度で接することが大切であることを理解し、場面に応じた判断をしようとする気持ちをもつことができています。

第4学年
B 思いやり

主題名 相手のことを思って

資料名 **親切のつもりだったのに**

【板書計画】

相手の気持ち
2人とも笑顔

場面絵

見かねた
放課後の練習に付き合う
アドバイス

場面絵

ごめんなさい
でも...もういい

なみだ
うなだれて

どうしてできないの
同じことばかり言わせ
ないで

親切の押し売り

友達だから
できなくてかわいそう
早くできるようになって
どうしてできないの
下手だなあ
できないから、イライラ
する

親切のつもりだったのに

親切でなかった

親切だった

◎ なかなかねつけなかった「わたし」が
考えていたこと

- ・ どうしてないたんだろう。
- ・ 教え方が悪かったかな。
- ・ きつい言葉で言っちゃった。
- ・ あやまろう。
- ・ ゆいさんにとへるようになってほしかったけど、ゆいさんの気持ちは考えてなかったなあ。

【指導観】

〈ねらいとする価値〉 価値観

自分はよいと思っても、相手のことを考えていない行為は本当の思いやりある行動ではないということに気付かせたい。

〈児童の実態〉 児童観

自己中心的に友達と関わることが多い。自分の思いよりも、相手の気持ちを考えることの大切さを感じさせたい。

〈資料について〉 教材観

「友達のため」と思って一生懸命に行動する主人公の心情をとらえさせ、相手の立場に立って考えることの大切さを考えさせる。

【主題に迫るための手立て】

〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉

☆教材資料の選択☆

内容理解を重点的にとらえ、内容が簡潔で、児童の実態にあった資料を選ぶ。

〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉

☆資料提示の工夫☆

資料全てを読んでから授業を進めたとき、児童の中で道徳的価値を先読みし、自分で考えたかのようにお手本の答えを出してしまう実態があるため、資料を分けて読むことで児童の本当の考えを引き出せるようにする。

〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉

☆ネームプレートによる意見表明☆

自分の立場を明らかにすることで積極的に考えをもったり、考えの違いを明確化したりでき、活発な話し合いにつながるようにする。

〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉

☆終末の発問☆

「今までの自分の言動はどうだったか」を登場人物と比較して考えさせ、ワークシートに書かせる活動を通して、今までの自分の行動を見つめ直し、今後の自分の行動につなげていく意欲付けになるようにする。

【ねらい】

「友達のため」と思ってしているつもりのことでも、自分中心的な考えで行っていることに気づき、相手の気持ちを考えて話したり行動したりしようとする心情を育てる。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1 親切な行動について考える。</p> <p>○「相手のことを考えて親切にしたことがありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに席を譲ってあげた。 	<p>・「してあげた」という言葉を押さえ、終末に生かす。</p> <p style="text-align: right;">ステップ1</p>
展開	<p>2 資料「親切のつもりだったのに」を読んで「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p>○「『わたし』は、どんな気持ちで結さんの練習に付き合っただけでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達だから、手伝ってあげなきゃ。 ・もう何時間やってると思っているの。 <p>◎「『わたし』が結さんにしたこと、親切だったでしょうか、親切ではなかったでしょうか。」</p> <p>親切だった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何時間も一緒に練習してあげるなんてすごいから親切。 ・困っている友達を助けようとしているから親切。 <p>親切ではなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がきついから親切に感じられない。 ・自分ができるからって、少し偉そうな気がする。 <p>3 相手を思いやることの大切さについて考える。</p> <p>○「なかなか寝付けなかった『わたし』は、どんなことを考えていたのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結さん、泣いちゃった。 ・きつい言葉、言っちゃった。今度は、優しく言おう。 ・結さんに跳べるようになってほしかったけど結さんの気持ちは考えてなかったな。 	<p>・資料の前半を読む。</p> <p style="text-align: right;">ステップ2</p> <p>・「わたし」は、結さんのためと思ってやっていることを押さえる。</p> <p>・ネームプレートを使用することで、全員が自分の考えを確認できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">ステップ3</p> <p>・ワークシートに記入させる。</p> <p>・理由は、「わたし」目線で書いてあっても、客観的に書いていてもよいことにする。</p> <p>・資料の後半を読む。</p> <p>・「わたし」の言動と結さんの表情・言葉、お母さんの「親切の押し売り」という言葉を確認しながら考えさせる。</p> <p>・「相手の気持ちを考える」という意味の言葉を押さえる。</p> <p>※相手の気持ちを考えて行動することの大切さについて考えることができています。</p>
終末	<p>4 自分自身について考える。</p> <p>○「今までの自分の言動を振り返りましょう。」</p>	<p>・ワークシートに記入させる。</p> <p style="text-align: right;">ステップ4</p> <p>※自分にも相手の気持ちを考えた言動があることやあまり考えずに行動していることがあるということに気づくことができています。</p>

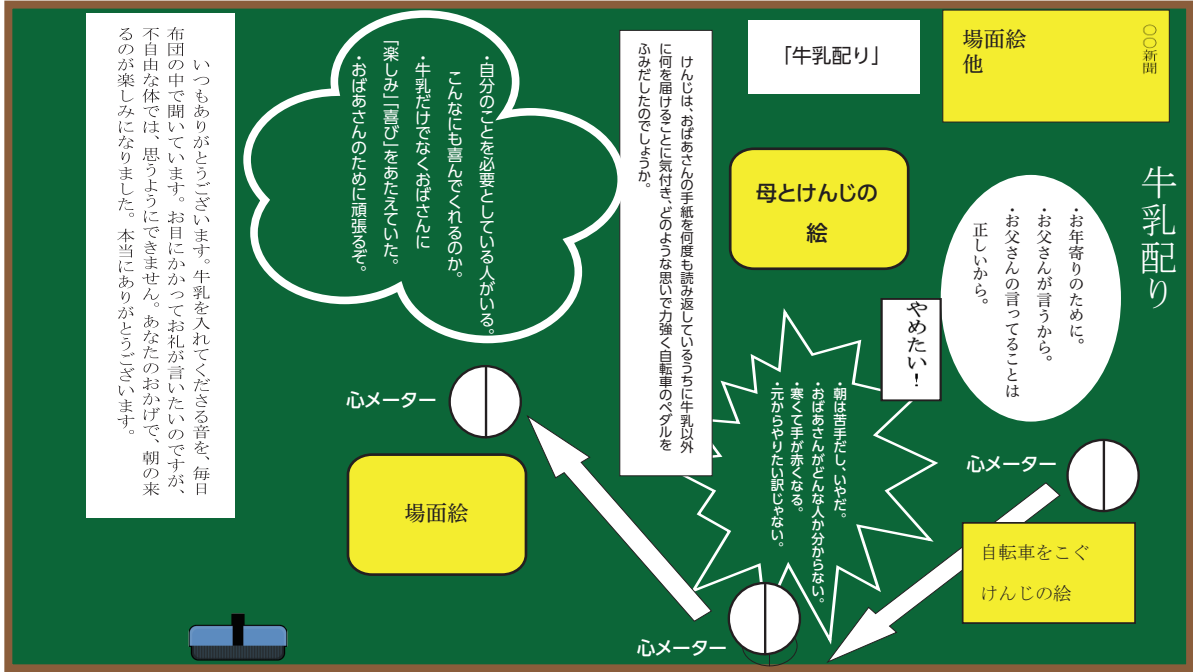
【評価】

相手の気持ちを考えて話したり行動したりしようとする気持ちをもつことができています。

第5学年
C 勤労, 公共の精神

主題名 人のために役立つ喜び
資料名 牛乳配り

【板書計画】



【指導観】

〈ねらいとする価値〉 **価値観**
勤労, 公共の精神とはどういうことなのかを知り, 働く意義や社会に奉仕する喜びや手ごたえを児童に体得させ, すんで行動する態度を育てたい。

〈児童の実態〉 **児童観**
仕事を見つけ行動できる児童がいる反面仕事をしてはいるがその意義を見い出せていない児童も多い。そこで本時では互いの行動を価値付けし合うことで人のために役立つよさを実感させていきたい。

〈資料について〉 **教材観**
めあてもなく父に頼まれて始めた牛乳配りがおばあさんの役に立っていたと実感することがあり心情が変化した主人公に共感させ人のために役立つ喜びを実感させたい。

【主題に迫るための手立て】

〈ステップ1 道徳的価値の理解を深めさせるために〉
☆資料提示☆
児童の心を惹き付け, 主人公に自分自身を投影して考えるようにBGMを流したり, 場面絵を掲示したりして問いかけ, 語りかける。

〈ステップ2 自己を見つめさせるために〉
☆心メーター☆
主人公に自己を投影して, 言葉では表せない心の葛藤を主体的に考えたり, 表現したりする手段として利用する。

〈ステップ3 多面的・多角的に考えさせるために〉
☆発問☆
過去の実践例を参考に児童の思考に沿って, 様々な視点から広く深く考えられるような発問を厳選する。
☆板書☆
児童の思考を深める視覚的な効果をねらい, 構造的に捉えて構成する。

〈ステップ4 自己の生き方について考えを深めさせるために〉
☆対話シートの活用☆
対話形式で自分自身の役割や行動の意義を考えられるようにする。

【ねらい】

おばあさんの手紙を読んで自分の行動への価値を見出し、今後への意欲をもつけんじに共感させることで、すすんで人のために行動しようとする態度を育てる。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	1 資料への導入を図る。 主人公を確認し、牛乳配りについて説明する。	・主体的に考える手立てとして、心メーターを使い、主人公の心情を追うように指示しておく。
展開	2 資料「牛乳配り」を聞いて、「けんじ」の気持ちについて考える。 ○「けんじはどんな思いで牛乳配りを引き受けたのでしょうか。」 ・お年寄りを思いやる気持ちから。 ・父からのお願いだったから。 ・父の考えに賛成だったから。 ○「けんじはどんな思いで『やめたい』と両親に伝えたのでしょうか。」 ・朝は苦手で何回も起こさなければ起きられないから。 ・おばあさんがどんな人かわからないから。 ・手が赤くなるくらい寒いから。 ・元からやりたい訳ではなかったから。 ・自分にとって良いことがない。 ◎「けんじは、おばあさんの手紙を何度も読み返しているうちに牛乳以外に何を届けていることに気付く、どのような思いで力強く自転車のペダルをふみだしたのでしょうか。」 ・自分はおばあさんに元気を届けていた。 ・これからも役に立ちたい。 ・もっと元気を届けよう。 ・おばあさんに「楽しさ」「喜び」をあたえていた。 ・もうやめようとした自分が情けない。頑張ろう。 3 対話シートで自分の仕事に対する意義を確認する。 ・対話シートへの記入 ・書かれたことを振り返り、感じたことを発表する。	・場面絵を貼りながら資料を読む。 ステップ1 ・心メーターでけんじの気持ちを表す。 ・仕事はしたくないが、お年寄りを守りたいという良心があることを押さえる。 ステップ2 ・心メーターでけんじの気持ちを表す。 ・牛乳配りがとても嫌で、もう限界だと感じるけんじの気持ちを押さえる。 ステップ3 ・心メーターでけんじの気持ちを表す。 ・1枚の手紙によってその仕事に価値を見出し、これからの仕事を頑張ろうという前向きな気持ちを押さえる。 ・日常の自己肯定感を高める活動を生かして、「手紙」を書くよう指示する。 ・主人公が手紙に気付いた喜びをクラスで共有できるよう、戻ってきたシートは裏返しにして待たせ、指示の後、友達からの手紙を一斉に読ませる。 ※普段、何気なくやっている自分の行動が他人の役に立っているということを知ることができている。 ステップ4
終末	4 教師の話を聞く。	

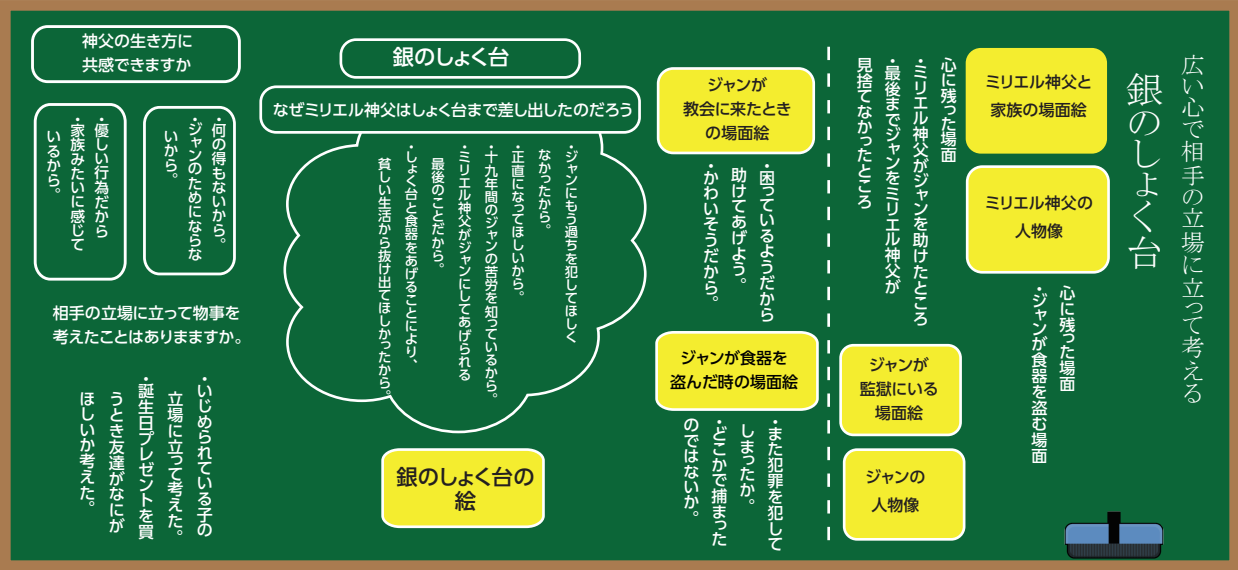
【評価】

けんじの心情の変化に共感し、すすんで人のために行動しようとする態度が育っている。

第6学年
B 相互理解, 寛容

主題名 広い心で相手の立場に立って考える
資料名 銀のしょく台

【板書計画】



【指導観】

〈ねらいとする価値〉 **価値観**
広い心で相手の立場を考えて行動することで、より深い人間関係を築けることを知り、生活の中で実践しようとする心情を育てたい。

〈児童の実態〉 **児童観**
自分の思いを主張する児童が多く人間関係に問題が起こることも少なくない。授業を通し日々の中で広い心をもつことの大切さを実感させたい。

〈資料について〉 **教材観**
神父が迷い、葛藤しながらもジャンを受け入れた寛容さや、その思いがジャンを改心させる力があつたことから、相手の立場に立ち行動する大切さを考えさせたい。

【主題に迫るための手立て】

〈ステップ1 ねらいとする価値にせまるために〉
☆導入での資料提示の工夫☆
難解で長い話の内容を理解させるため、登場人物の人物像・背景をまとめたものを範読前に提示する。

〈ステップ2 多面的・多角的に考えさせるために〉
☆主発問での話し合い☆
自分の立場を明らかにすることで積極的に考えをもったり、考えの違いを明確化したりし、活発な話し合いができるようにする。また、意見を再考し、考えを深められるようにする。

〈ステップ3 道徳的価値の理解を深めさせるために〉
☆主発問での効果的で臨機応変な発問☆
あまりに崇高な神父の行動を、「神父」だから、という理由だけで終わらせないように、神父の迷いやジャンに対する思いまで深く考えさせる。その時に臨機応変に、「犯罪者を助けることは犯罪では?」「神父は誰に対しても許したのか?」などの発問で児童に揺さぶりをかけ思考を深めさせる。

〈ステップ4 自己の生き方についての考えを深めさせるために〉
☆日々の生活を振り返る活動☆
自分でも普段の生活の中で他人の立場・状況を理解し行動していることを確認し、これからも意識して実践していこうという心情を高めさせる。

【ねらい】

広い心で自分と異なる立場の人の気持ちを尊重し、相手の立場に立って考えようとする心情を育てる。

【展開】

	主な発問と予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入	1 資料への導入をはかる。 ○「今日の資料名、登場人物について説明します。」	・ねらいとする価値にせまるため登場人物の背景を理解することが重要になる。ポイントを分かりやすくまとめたものを掲示しておく。 ステップ1
展開	2 資料「銀のしょく台」を読み、ジャンと神父の人物像について考える。 ○「心に残った場面はどこですか。」 ・ジャンが大切な神父の皿を盗んでしまった場面。 ・裏切られても神父がしょく台を渡す場面。 3 神父の心の変化を追う。 ○「初めて二人が出会ったとき、神父はどんなことを考えていただろう。」 ・困っているから助けてあげよう ○「銀の食器を盗まれた時、神父はどんなことを考えただろう。」 ・ジャンを泊めたことは間違いだったか ◎「裏切られてもしょく台を差し出した神父の生き方に共感できますか。その理由も教えてください。」 ・共感できる 理由—優しい行為だから。ジャンを家族のように考えているから。 共感できない 理由—自分には何の得もないから。信じてても裏切られるのは嫌だから。 ◎「神父のしたことはなかなかできることではありませんね。では、なぜ神父はしょく台を差し出すことまでしたのでしょうか。」 ・ジャンは長い間、牢屋で生活していたから。 ・貧しい人だから。 「貧しい人ならみんな許されるのかな。」 ・ジャンに罪を重ねることをここで終わりにしてほしかったから。 ・自分が犠牲になることで、ジャンを更生させられると考えたから。 4 自分自身を振り返る。 ○「相手の立場に立って行動できたことはありますか。そのときの気持ちも書きましょう。」	・児童が印象に残った場面を挙げ、議論に値する話題がねらいとする価値に向かうよう焦点化していく。 ・初めから神父は相手の立場に立ってジャンと接していたことを押さえる。 ・ジャンを信じたいと思いつつも、迷いや葛藤を抱える神父の複雑な気持ちも捉えさせる。 ・自分の考えを明確にし、発表する。友達の意見を聞き、多様な意見に触れ、自分の考えとの比較から思考を広げられるようにする。 ステップ2 ・神父のような生き方をすること、行動として表すことは、難しいことを押さえる。 ・ワークシートに自分の考えを書く。(⇒班、クラスの順で話し合い。) ・最後までジャンを助けようとする神父の慈悲深さを捉えさせる。 ・ジャンの生き立ちを理解し、ジャンの立場に立ち寛容に接しようとする神父の深い思いまで考えられるよう、葛藤場面を設ける。 ステップ3 ※広い心で相手の立場に立って行動することの大切さに気づき、生活に生かしていこうとする気持ちをもつことができたか。 ステップ4
終末	5 教師の話を書く。	

【評価】

寛容な気持ちで相手を受け入れることの大切さを知り、広い心で相手の立場を尊重し行動しようとする心情をもとうとしている。



研究の成果

児童

○道徳的な行動への意識の高まり

「道徳的な行動についての意識調査」では、22項目中14項目で上昇がみられた。児童が道徳の授業を通し、ねらいとする道徳的価値について考え自分のことを見つめることで、道徳的な行動への意識が高まったと考えられる。

○自己肯定感の高まり

自己肯定感を高める取り組みによって、自分の成長やよさに気付き、自分のよいところを認められるようになってきた。

○考える力の高まり

広く、深く考える道徳授業を目指したことで、自分の思いや考えだけでなく、相手の気持ちになって考えられるようになった。

学校



○授業力の向上

ねらいとする価値について、児童が意欲的・主体的に学ぶことができるように、多様な指導方法を日々話し合い、工夫実践してきた。この5年間で積み重ねてきたことは、私たち教師の大きな力となった。

○教材・教具の共有化

授業で使用した教材・教具や板書計画などは、パソコンや道徳教材ファイルに保存し次年度に活用した。他教科の準備などもある中、準備の効率化や指導方法の更なる改善につながった。

○保護者の理解の広がり

保護者から学習した内容に合わせて子どもに一言書いていただいたことは、改めて保護者が子どもの様子や考えを知るよい機会となり、子どもの自己肯定感や道徳性を育む実践につながった。

研究の課題

○評価方法の確立

道徳の評価が来年度から実施される。どのような方法で見取っていくか、今後も研究していく必要がある。

○全体計画・年間指導計画・別葉の改善

来年度からは道徳の教科書が導入される。今回研究で作成した資料等を基に、今後も修正改善をしていく必要がある。

○授業の更なる工夫・改善

道徳を好きでない児童は、「考えるのが難しい。」「発表する時どのように言っていかが分からない。」「聞いている時間が長い。」などを理由に挙げていた。児童が主体的に取り組んでいけるように、児童の立場に立った発問や授業展開を更に工夫していく必要がある。

memo

memo



調布市立多摩川小学校

住所 調布市多摩川 3-21-1 電話番号 042-481-7648

登録番号
(刊行物番号)

2017-130